（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4371000565		
法人名	社会福祉法人　愛敬会		
事業所名	グループホーム　清泉		
所在地	熊本県菊池市七城町亀尾2484番地		
自己評価作成日	平成30年1月5日	評価結果市町村受理日	平成30年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	平成30年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

人との交わり、地域との交わり、自然との交わり、医療との連携により安心してホッとできる生活を支援している。
・人、地域との交わり・・・少人数での家族的な馴染みの関係に加え、法人敷地内のデイサービスや特別養護老人ホームへの参加や交流
・自然との交わり・・・敷地内園庭の整備により、たくさんの散歩コースや植物や動物とのふれ合い
・医療との連携・・・看護、医療体制の充実による健康管理

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

桜や藤棚・菖蒲など季節の木々や草花の開花をはじめ、来訪者を迎えてくれるヤギやウサギの存在は、入居者の身近な外出の機会をより楽しみなものとしている。今年度の目標に「生活の活性化で“自分も出来る”という自信につなげる」を掲げ、職員は高齢化が進む中にあっても、一人ひとりの“今”できることにチームワークをもって取り組んでいる。リビングホールの壁には『ちょっとの支援で行動につながることができました』と題し、おやつ作りや畑作業・干し柿の皮むきの様子など昔取った杵柄を発揮している場面の写真や書道の作品が掲示されている。年月を重ねても手入れの行き届いたホーム内環境は、更に入居者に居心地の良い時間を提供しており、居室においても家族の思いやその方の特技・趣味などを窺うことができる。昨年開設から20年を迎えた『特別養護老人ホーム清泉』とともに、これからも“ホッ”とする生活をおくれるグループホームとして年月を重ねていかれることを期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名:グループホーム　清泉

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬愛・安心・地域と共に」という理念を掲げ入居者がホッとした生活をおくれるように支援している。今年の目標を「生活の活性化で〝自分も出来る〟という自信につなげる」とし、利用者一人ひとりの日常生活を活性化するために取り組んでいる	4月の法人全体会議で、グループホームを含む各部署の理念・目標を発表して、確認と共有の徹底を図っている。今年度はホームの理念は継続することを確認し、新たな目標を掲げ、毎月、入居者の意向や希望を聞きながら活動計画を立てて実践している。入居者にとっては、あきらめていたところも少しづつできることが発見でき、「楽しい」「うれしい」との声も聞かれ、ホームでの生活の活性化につながっている。	新年度も入居者の“ホッ！”とした生活をおくれるよう、理念の共有や目標を定めて日々の支援に努めていかれることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のデイサービスを引き続き利用したり、法人全体でのイベントに参加することで地域の方とのつながりを大切にし、地区の堂さんの奉仕作業に月1回出かけることで地域とのつながりも大事にしている。	理念の1つにも掲げている「地域と共に」を実践するため、地区の堂さんの奉仕作業として月1回入居者と共に美化作業（草取り等）に出かけている。作業中には、通りがかりの地域の方から感謝の言葉をかけられるなど交流が広がっている。また、中学生の福祉体験や高校生の実習を受け入れており、その実施前には、出前福祉講座に出向くなど地域の学校生徒との交流も図られている。その他、敷地内にある法人特養施設でのイベント参加やデイサービスへの訪問は、地域の人達との交流の機会に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の福祉体験、高校生の実習を積極的に受け入れている。今年は地元中学校での福祉出前講座に参加したり、市民公開講座にも協力し地域に貢献している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の入居状況や活動報告だけでなく、ご家族からの活動の要望等を聞きサービスの向上に活かしている。毎回、会議に出席される御家族もおられ事業所の取り組みに理解を得ている。	運営推進会議は、2か月ごとに行政、民生委員、老人会会長、区長、入居者家族、ホームからは管理者と主任をメンバーとし本体施設の会議室で開催されている。入居者の状況・活動報告の後、それぞれの立場で質疑応答、意見交換等がなされている。家族内で交代での出席や、遠方から会議に合わせて帰省されるところもあり、本人より「ここが家だもん」の発言があり安心したなど、面会時のやり取りも紹介されている。出席できない家族には、活動計画書を郵送するほか、玄関に議事録を開示することで、情報の共有を図っている。	運営推進会議は、本体施設の2階会議室で行われているが、入居者の状況を直接見てもらうことも重要であり、ホームでの開催の機会を持たれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人の行事や運営推進会議にも参加をいただき、事業所の現状を見ていただいている。また市の見守りネットワークの会議に参加した。	市は、運営推進会議にメンバーとして出席する他、法人のイベントに参加するなど、ホームの実情を把握するとともに、防災等必要な行政情報を提供している。また、高齢者の安心・安全な暮らしを確保するための市の見守りネットワーク会議への参加や、市民向けの地域福祉塾開催時の施設見学に協力するなど、関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で原則身体拘束はしないこととしており、身体拘束に関する研修会を毎年行っている。職員全体で拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会を毎年実施しており、その内容と弊害を認識し、拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束には、身体的なものに限らず、言葉などによるソフト面での拘束もあることを繰り返し周知するとともに、どこまでが拘束に当たるか職員で考える機会を持っている。食卓やソファーについても、身体的な面を考慮しながら、使い勝手の良いものを選んで圧迫感のない暮らしができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年1回、法人内で研修を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修で学ぶ機会があるが、制度の対象となる利用者はなく、今のところ活用するための支援はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間をかけ説明しご家族に理解、納得していただけるよう努めている。今年度、利用者負担金の処遇改善加算の変更もあり、家族ごとに説明し納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、独自のアンケートをとることで、御家族の思いを知ることが出来る他、運営推進会議や家族会で気軽に話せる機会を設けた。	運営推進会議には家族の参加も得られており、意見、要望等を外部に表せる機会となっている。また、面会時や家族会では、入居者の近況を報告しながら、意見や相談等を伺うよう努めている。更に、今年度は、独自のアンケート調査を行い、より詳しく、意見、要望等を把握するように取り組んでいる。入居者からの意見、要望は、日常の関わりの中で聞いており、毎月の活動計画は、入居者に尋ねながら決めるなど、生活の活性化に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自己申告の提案・要望の欄の活用の他、年に1～2回の個人面談時にも直接意見を聞く機会を設けている。	管理者と主任は、年1～2回、職員の自己申告書に基づき直接面談を行い、意見や提案を確認する他、日々の職員とのコミュニケーションや毎月のグループホーム会議で、活動計画作成をはじめとしてアイディア、気づき、提案等を聞き入居者支援に活かしている。また、勤務体制については、夜勤専門職員の採用などにより、職員の負担に配慮し、休暇取得においても個別事情にできるだけ対応するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準・労働時間等は、常に検討しており、それぞれの希望の働き方ができるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で取り組む研修の他、個々に合った外部研修への参加などで研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者には同業者管理者と定期的な情報交換の場を、職員には研修会参加など交流の場を作りサービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に居宅ｹｱﾏﾈｰｼﾞｬｰや利用されていたサービス事業所より情報収集を行い、スムーズなサービス導入に努めている。また、事前に体験していただいたり、職員が顔なじみになる等、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、これまでのサービス利用状況や家族の要望、利用者の生活スタイルなど時間をかけ聞き取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでのサービス利用状況を知り在宅と同じようなサービスも検討することで、その方に合ったサービスを提供している。必要な方には法人内のデイサービス利用の対応も可能である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬愛の念をもって接し、職員も共に過ごす時間を大事に思い、お互いに助け合うことで「ありがとう」と言える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より報告、相談することで関係維持に努め、年一回の家族会では御家族、利用者、職員が共に楽しめる参加型の企画で交流を図り、外出、外泊の支援、病院受診など家族との関わりも大切にしていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行きつけの美容室に出かけたり、入居前利用していたデイサービスの継続利用や地元の堂さんの奉仕作業に毎月出かけたりしている。	友人・知人の訪問や地域の方が散歩途中立ち寄られるなど、馴染みの関係が継続できるようにより支援している。また、正月には、入居者全員が帰宅されるなど、面会を含め、家族との関係が継続されるよう支援している。更に、編み物や縫物、干し柿や餃子作り、洗濯物干しや畳み、茶わん洗い、草取りなど昔取った杵柄が発揮できる機会やこだわりなども継続できるようにしている。園庭には、ヤギやウサギも飼育されており、これらの環境も入居者にとって馴染みの場所となっている。	入居者にとって、新年への思いは特別と思われる。正月を自宅で過ごされことは何より喜ばしく、今後も家族の協力を得ながら、入居者にとっての大切な時間・人・場所との関わりを支援いただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事を助け合いながら、日常的にされる場面も多く、利用者の方から声をかけてもらい手伝っていただくこともある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰された方が、時々、お弁当持参で遊びに来られたり、御家族の相談を受けることもある。併設の施設に住み替えられた利用者が遊びに来られたり、こちらから面会に行くなど交流がある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを用い、長年馴染んだ習慣や好み、これまでの家庭での暮らし、ショートスティやデイサービス利用時の様子など把握に努めている。	入居者一人ひとりの思いや希望、意向は、日々の会話やケアの中でしっかり把握するよう努めている。自分の思いや意向をはっきり言われない方には、本人の表情や行動などで推察したり、家族からも聞きながら、本人本位になるよう対応している。家族からは、干し柿づくり等昔やっていたことをさせてほしいなどの要望をはじめ、出されな内容は職員間で検討を重ね、プランにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを用い、習慣や好みを記入していただいたり、御家族よりこれまでの状況を聞き取ったり、１人暮らしの方には、ショートスティやデイサービスでの様子を聞き情報を収集している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的または状態に変化があった時に、アセスメントを取り直したり、グループホーム会議で話し合い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に状態変化や課題が発生した時、グループホーム会議でカンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行っている。特に排泄ケアの見直しは試用期間を設け、その結果もカンファレンスを行っている。	担当制をとっており、日常の生活や会話の中から、本人や家族の意向をくみ取り、プランに反映するようにしている。プランは、基本3ヶ月毎に見直すようにしており、サービス担当者会議を、家族が出席しやすいように、帰省時やイベント、面会時に合わせて開催している。サービスの変更は、職員間で話し合うとともに、試行期間をおいて現状に即したものになるように取り組んでいる。家族へのプランの説明に当たっては、本人の現在の状態を伝えるとともに、サービスの変更があれば理由と内容を丁寧に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に食事、排泄、身体状況、定期薬の変更なども記録することで、情報を共有できるようにしている。また、その方の発した言葉も記録することで、その時の思いを知り、ケアやケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の状況変化に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の特養とデイサービスとの合同行事に参加したり地域の堂さんの草取りにも月に一回出向いている。年に2回は、地域の温泉施設を利用することが出来た。また、今年は地域の方々とバスハイクに職員と共に参加した。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、主治医の訪問診療や薬剤師による居宅療養管理指導もあり、相談、助言をうけることで健康管理に努めている。眼科と歯科に関しては訪問診療を受けている。	本人・家族の希望する医療機関を支援しており、協力医による月2回の訪問診療や、他の医療機関へ家族や状況に応じてホームで受診に対応している。また、薬剤師による居宅医療管理指導や協力医は訪問診療日以外にも、入居者の健康管理にホームを訪れ、職員から状況報告や相談に応じている。眼科・歯科については訪問診療を受けており、特に歯科においては、義歯の付け方について指導を受け、毎食後の歯磨きの徹底や状況によってはうがいなど口腔ケアに取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置し介護職員と共に健康管理を行い、利用者の状態に応じて、必要時は看護師に報告、相談をし、看護師との連携を図ることで主治医への報告、適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、訪問し利用者の状況把握と病院関係者からの情報収集をこまめに行い、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合等の事業所の対応についてや御家族の意向も確認している。ｸﾞﾙｰﾌﾟホームでの対応が困難になった場合、併設の特養への住み替えも視野に入れ支援している。	入居時に重度化・終末期支援に関するホームの方針などを説明し、その時点での本人・家族の意向を書面で確認している。継続した医療対応が必要でなければ、ホームでの最終を支援しており、看取りに関する研修会も行われている。身体状況の変化など必要に応じ家族と話し合いの時間を持っており、併設の特養への住み替えなどの相談に応じている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時にも適切な行動や主治医への報告が円滑にできるよう、グループホーム会議の中でも報告ルートの再確認を話し合った。また、菊池市内に主治医をもつ入居者の場合の報告マニュアルも作成した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、他事業所の協力体制のもと、避難訓練を実施している。実施後は問題点や反省点を話し合い、安全、確実な避難誘導ができるように取り組んでいる。災害対処訓練を法人全体で実施した。	今年度はホーム単独で昼間想定の避難訓練と、法人全体で夜間想定の訓練を実施している。年度末には、これまでの訓練の反省などを生かし、夜間想定訓練を予定している。火災は火を出さないことが一番であり、防火管理責任者を中心に、コンセントの埃を含め毎月安全チェックを行っている。	昨年の熊本地震ではホームに大きな被害はなかったようであるが、今後も火災に加え、自然災害についても意識をもって対策に取り組まれることを期待したい。運営推進会議の中で避難訓練を実施することも、地域との協力体制や参加者からの意見など新たな効果が生まれるものと思われる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げているように、敬愛の気持ちで利用者に接している。ケア面は特にプライバシーに配慮した対応を心がけている。	入居者への敬いの気持ちやプライバシーに配慮した支援について、職員間で共有を図りながら日々のケアにあたっている。呼称は苗字にさん付けで対応し、ベッドでの起床時には女性職員で行って欲しいなど、要望が出さた場合は、希望に応じている。また、様々な活動も、職員の決定ではなく、本人に選択してもらうようにしている。身だしなみやおしゃれの機会も大切にしており、衣替えは家族にも協力を依頼しており、衣類購入や行きつけの美容室へ外出をされる家族もおられる。	同性介助については勤務体制上困難な面もあると思われるが、今一度全員に希望を確認することも必要と思われる。法人広報誌の表紙を飾った、『文化祭ファッションショー』の利用者の笑顔は印象的で足取りも軽やかに伝わってくる。今後も一人ひとりがその方らしく暮らし続けることができるよう、職員が協力して場面作りに努めていかれることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム内外の行事や活動の参加は、自ら選択していただけるような声かけの支援をしている。特に買い物や散歩は利用者の希望に応じて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて過ごしていただいている。「きつい」との訴えがある時や、夜間不眠の方には、お尋ねしながら居室で休んでいただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の中には普段よりお化粧をされている方もおられ、行きつけの美容室でパーマやカットをご家族の支援で利用されている。イベント時は、職員の見立てで一緒に服選びの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食作りの野菜の切り刻みだけでなく、味付けから盛り付けまで手伝ってくださる利用者もおられる。おやつ作りもホットプレートを囲んで利用者自ら調理するなど、食べることだけでなく、作る喜びを職員と共に味わっている。	日中は入居者との関わりを重視し、昼食は法人厨房で、ホームでは朝食・夕食を調理している。入居者も畑で野菜を作ったり、ひともじの根を揃える、盛り付けなど昔取った杵柄の場面も多く、おやつ作り（団子・たこ焼きなど）も一緒に楽しんでいる。また、夏祭りやクリスマス・忘年会などで家族と一緒に食事を楽しむ時間を持っている。席の配置は相性や介護の状況によって検討しており、職員も見守り⇒介助を行いながら、同じものを一緒に取っている。	職員が同席することで会話の弾むテーブルや、食事介助で食が進む様子を見て、「今日はよかごたるですね！」と、他のテーブルの様子も気に掛ける方など、日常の光景が伝わってきた。今後も入居者にとって楽しい食事支援の継続を期待したい。また、献立の中にあるみそ汁・すまし汁については、実際提供した具材について記録しておくことで、次回の参考にも繋がると思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼に問題のある利用者には、刻みで対応し認知症の進行により、食思の低下がある利用者には、色つきの器に変えたり、病状に応じて油物や刺激物をさけて提供するなど工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い実施し、磨きなおし等の支援を行っているが、声かけに対して応じられない時は、時間をおいて再度促している。　うがいだけ行ってもらうこともあり、強制しないように配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを掴み、声かけの誘導で失敗なくトイレで排泄できるように支援している。入居時、紙パンツ使用から布ショーツ使用へ変更したりパットの使い分けも行っている。	自立の方以外は排泄チェック表を活用し、声掛けや誘導を行っている。昼間は全員、布パンツでパットの使い分けを行っている。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、毎日漂白剤で清潔に保ち、日中はカバーを掛けて、自室や洗濯室の空きスペースで管理するなど、プライバシーにも配慮した対応である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から水分補給に努め、起床後、牛j乳や白湯を提供し排便を促す工夫をし、午前中の体操は日課になっており、時々、散歩に出かけるなど体を動かすことで自然排便を促す支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に合わせて入浴していただき、年2回は地域の温泉施設での入浴を楽しんでもらえるように支援をしている。	入浴は職員とゆっくり会話を楽しめる時間であり、温度管理や掃除の徹底に努め週2～3回支援している。1番風呂を喜ばれる方、自分で着替えの準備や洗身をされる方、好みの湯温など希望や残存機能も生かしながら個々に応じて取り組んでいる。また、入浴剤を使って冬至の柚子風呂やフットケアなども好評である。地域は温泉施設もあり、年2回は外出を兼ねて出かけ、併せて食事やデザートの時間も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠時や入浴後は、体調を整えるため、居室で休息できるように支援している。また寝具類は天日干しを行い、こまめに洗濯し気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や新たに処方された時、個人の健康チェック表に記入することで情報の共有を図り、主治医の往診時や薬剤師の訪問時に情報を提供することで治療や服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅で出来ていたことが続けられるように洗濯物を干したり、たたんだり、夕食作りも野菜の切り刻みだけでなく、味付け盛り付けまで、出来る能力を発揮できるように支援している。季節ごとの野菜作りや干し柿作りなど、日々の暮らしも季節感を取り入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの中に閉じこもらないように、気分転換を兼ね敷地内を散歩に誘ったり、デイゲストに会いに行ったり、ショートスティ利用者や入所者の面会にも出かけている。また、活動プログラムを作成する時、ドライブや食事、季節の花見などを企画し計画的な支援ができるようにしている。今年は地域の方とのバスハイクやサーカス観覧などにも出かけた。	法人敷地内の環境を活かし、菜園で野菜を育てたり桜や菖蒲などの花見、山羊・ウサギを見ながらの散歩や散策を楽しんでいる。また、車を使って喫茶店利用やコスモス見学・ブドウ狩り、数年ぶりに熊本で開催となったサーカス観覧に出かけ懐かしい時間を過ごされたようである。これらの外出の様子は法人やホームの広報誌の中でも写真を付け紹介されている。また、隣接する母体施設でのイベントやデイサービス利用者との交流も継続して取り組んでいる。	ホームは毎月、活動プログラムを作成し季節に応じた外出や敷地内でも散歩や日光浴など身近に外気に触れる機会を持っている。今後も家族の協力を得ながら、入居者の笑顔を引き出す外出支援への取組に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの食材等の買物時、利用者も同行しお菓子など、ご自分管理のお金で買物を楽しまれている。また、併設事業所の駄菓子屋さんでは、自由に買物をして頂ける機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の中には携帯電話を所持されており、毎日その日の出来事を連絡し合っている方もおられる。また、不定期ではあるが、遠方在住の娘さんから届く手紙を楽しみに待っている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、利用者の手作りの飾り物や貼り絵を飾り、季節感を感じながら過ごしていただけるように工夫している。食事時は、音楽を流し雰囲気作りをすることで落ち着いて食事が摂れるようにしている。	玄関やホーム内には花（パンジー・ねこやなぎ・ロウバイ他）や入居者の共同作品（ちぎり絵）など季節を感じ取れる他、リビングから眺められる中庭など、穏やかな時間を過ごせる環境である。ホーム内はシルバーカーや独歩の方など、安全に移動できるよう、整頓や家具の配置も検討している。また、掃除や温度計を確認しながら細やかな空調管理に努めていることは、インフルエンザの発生を防いでいる一つのようである。入居者の作品を掲示したコーナー『ちょっとの支援で行動につながることができました』や布で包んだ足乗せ台など職員の一工夫が活かされている。	入居者の作品を掲示したコーナーが、今後も本人の励みや来訪者にとっても楽しみの一つとなるよう、継続した取組に期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合った利用者同士で過ごしたり、畳の間で新聞を読んだり思い思いに好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	気分転換も兼ね、利用者の意見を取り入れながらしつらえを共に考えている。	居室は自分の部屋として安心して過ごせるよう、入居時に馴染みや思い出の品などの持ち込みを伝えているいる。入居後も本人の意見や家族との連携を図りながら環境を整えている。入口の戸には職員の工夫によって個別の写真プレートが掛けられ、家族にとっても訪室しやすい雰囲気である。壁には、書道や手芸作品、帰省時に写した家族との集合写真などが掲示されている。また、棚に置かれた遺影に好みのお菓子を先ずは備えられるなど、その方の趣味や特技をはじめ、大切な人や物への思いが伝わってくる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカー使用の利用者も多いため、移動時は安全に動けるようにソファやテーブルの配置を考えている。トイレや浴室内の手すりを自身で使い移動できるように促し、手を出し過ぎない支援を心がけている。		